

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	兵庫県	市町村名	あかし 明石市	地区名	にしあかしえきみなみ 西明石駅南地区	面積	28.3	ha
計画期間	令和	5	年度	～	令和	9	年度	
				交付期間	令和	5	年度	～
					令和	9	年度	

<p>目標</p> <p>大目標：広域的な交通拠点のポテンシャルを活かした地域の生活拠点の形成</p> <p>目標1：交通利便性の向上に伴う地区内人口の増加</p> <p>目標2：まちなかの魅力向上に伴う賑わいの創出</p> <p>目標3：暮らしやすい環境の創出</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>明石市は、大部分が市街化区域となっており、良好な住宅地が形成され、公共交通ネットワークも充実しています。本市の人口は現在も増加が続いており、今後も市街化区域内の人口密度は高水準を維持していくと考えられます。しかし、全国的な傾向同様、本市においても高齢化が進行していくと予想され、都市機能、産業、地域コミュニティ、自治体運営などに大きな影響が出る可能性があります。さらには、近年激甚化する災害への対策は大きな課題であり、引き続き、洪水や津波、土砂災害への対策を行うとともに、今後発生が想定される南海トラフ巨大地震を見据えた安全、安心な市街地形成が求められています。</p> <p>このような中、「明石市SDGs推進計画」の将来像及び「明石市都市計画マスタープラン」の将来都市像を実現するため、高齢化の進展や多様なライフスタイルの実現などの課題に対応しながら、現在の良好な住環境を維持し、誰もが便利で安心して暮らすことができる持続可能なまちづくりを進める必要があります。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>明石市においては、「明石市SDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)」(2021年度改定)において、「いつまでも、すべての人に、やさしいまちを みんなで」を2030年のあるべきまちの姿として定め、明石のまちが住みやすいと思う人の割合100%を目指しています。まちづくりの方向性として、経済・社会・環境の三側面から方向性を定めておりますが、特に経済面において「にぎわいと活力が持続するまち」を目指し取組みを進めています。</p> <p>西明石駅南地区について、市内唯一の新幹線停車駅という交通利便性と藤江～松江海岸など明石を代表する自然景観を有した魅力ある地域であるにも関わらず、駅周辺の安全性・利便性の低さ、南北のアクセスの悪さ、地域交流機能の不足、土地の低未利用などの課題があり、2011年(平成23年)度より地元自治会が中心となり、「西明石活性化プロジェクト協議会」を組織し検討が進められてきました。</p> <p>また、JR神戸線の終着駅でもありJR関連施設も多く存在し、明石市とJR西日本とで所有地の活用や施設整備を一体的に行えば整備効果が高いことから、2020年(令和2年)にはJR西日本と「西明石駅及び駅周辺におけるまちづくりに関する協定書」を締結し、具体の事業に向けた協力も行ってきたところです。</p> <p>具体的に既に着手済みの事業として、南北のアクセス向上に向けた開かずの踏切(南畑踏切)の歩道橋化の工事は2024年(令和6年)春の完成を目指し実施中です。</p> <p>今後は、駅南口に新たなバリアフリー改札・駅ビル・駅前広場を整備するとともに、当該駅前広場を中心としたアクセス道路の整備、またそこから徒歩圏内の場所への地域交流拠点の整備などをJRと協力しながら進める予定です。</p> <p>なお、当地区は、「明石市都市計画マスタープラン」(2023年3月3日改定)においても、広域交通拠点としては活発な交流を育むまちづくりをすすめることとされており、「明石市立地適正化計画」(2023年3月策定)における都市機能誘導区域や、「明石市ユニバーサルデザインのまちづくり実行計画」(2023年3月改定)における移動円滑化促進地区に位置付けられていることから、今後は障害者・子ども・高齢者を含む全ての人にやさしいまちづくりを都市機能の整備含め、ハード・ソフト両面から進めていくことが求められています。</p>
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅南側からホームまでのバリアフリー経路が無いこと。 ・既存の地域交流拠点(サンライフ明石)の老朽化。 ・狭隘な駅前道路の改良による歩行者の安全確保とウォークアブルな空間創出。 ・JR神戸線及び山陽新幹線の二線の鉄道にまちが分断されたことによる南北のアクセスの悪さ。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>①明石市SDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)(2021年度改定) 計画期間：2022～2030年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済面では安心の暮らしの向上を図るため、市民やまちの経済的な基盤が安定的に発展していることが重要であり、「賑わいと活力が持続するまち」を目指す ・社会面では、SDGsの理念である誰一人取り残さない社会を実現するため、「すべての人が助け合い安心して暮らせるまち」を目指す ・環境面では、安全で快適な暮らしを将来にわたり引き継げる「人にも自然にも地球にもやさしいまち」を目指す <p>②「明石市都市計画マスタープラン」(2023年3月3日改定)</p> <p>【誰もが安全・安心に暮らせる、人にやさしい都市づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や多種多様な主体がまちづくりに参画し、世代や分野を超えて繋がり合う共生社会(インクルーシブ)の創出を目指します。 ・ユニバーサルデザインに配慮した都市整備を行い、誰もが安全で快適に移動しやすく、暮らしやすい都市づくりを進めます。 <p>【まちの魅力により活力と交流が持続する都市づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育、福祉、情報、就労など生活に必要な機能を有する施設の維持・管理や公共交通等によるアクセス性の維持・強化を行い、多種多様な世代が交流する拠点としての維持を図り、賑わいの創出を図る他、市内外との交流が盛んな都市の形成を目指します。 <p>※計画に位置づけられた西明石地域の目標※</p> <p>広域交通拠点としてのポテンシャルを活かした地域活性化、JR西明石駅南側の新たな改札設置や駅前広場、アクセス道路などの整備 等</p> <p>③「明石市立地適正化計画」(2023年3月3日策定)</p> <p>※西明石駅南地区の都市機能誘導区域の位置づけ※</p> <p>今後予定されている駅ビル、駅前広場の整備や地域交流拠点(サンライフ明石)の建替により、広域的な交通拠点のポテンシャルを活かした地域の生活拠点の形成を進める。</p>

